

令和5(2023)年度 病害虫発生予報 第5号

令和5(2023)年8月25日
栃木県農業環境指導センター

病害虫の発生動向を注意深く観察し、適期防除を徹底しましょう。

予想期間8月下旬～9月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稲 いもち病(穂いもち)

- (1) 発生予想 ・ 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・ 8月上旬の葉いもち(上位葉)の発生量は平年並(平年比68%：ほ場率、平年比55%：株率)。(±)
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は少ない見込み。(～±)
- (3) 対 策 ・ ほ場の発生状況を良く観察し、葉いもちの発病が見られる場合は、穂いもちに進展しないよう早急にブラシフロアブル(RACコードF:16.1、U14)等、予防・治療効果のある薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ [BLASTAM\(いもち病発生時期予測システム\)](#)情報、[いもち病QoI剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 水稲 斑点米カメムシ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 8月上旬の水田におけるすくい取り調査での発生頭数は平年並(平年比85%：成幼虫数)。(±)
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・ 出穂期の薬剤防除後も発生が多い場合は、7～10日間隔で1～2回の追加防除を行う。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュース\(速報No.7\)](#)を当センターHPに掲載中。

3 大豆 ベと病

- (1) 発生予想 ・ 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比83%：ほ場率、平年比40%：株率)。(±)
・ 品種「里のほほえみ」は、べと病が発生しやすい。(+)
・ 向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並か多い見込み(+)
- (3) 対 策 ・ 開花10日前から子実肥大期にザンプロDMフロアブル(F:45、40)、ベトファイター顆粒水和剤(F:27、40)等を散布する。

4 大豆 吸蜜性カメムシ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(平年比77%：ほ場率)。(－)
・ 8月第1半旬までのフェロモントラップによるホソヘリカメムシ総誘殺数はやや少ない。(－)
・ 8月第1半旬までの予察灯へのアオクサカメムシ誘殺数はやや少ない。(－)
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・ 開花期の15日後から子実肥大後期(9月下旬)までにトレボン乳剤(I:3A)、スミチオン乳剤(I:1B)等を10～14日間隔で散布する。

5 いちご 炭疽病

- (1) 発生予想 ・ 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(平年比57%：ほ場率、平年比100%：株率)。(－)
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ 症状が出てからの防除は困難なので、予防を主体にRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。苗による本ぼへの持ち込みを防ぐため、育苗期の防除を徹底する。
・ 水滴の飛散等で伝染するので、点滴かん水を行い、頭上かん水を避ける。
・ 発病株周辺の株は、発病が認められなくても潜在感染している可能性があるため、定植苗として使用しない。
・ 発病株を見つけたら早急に取り除き、施設外に持ち出し適切に処分する。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュース\(速報No.6\)](#)、[炭疽病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

6 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並（平年比 117%：ほ場率、平年比 162%：株率）。(±)
・ 向こう 1 か月の気温は高く、日照時間は少ない見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・ 定植前の農薬炭酸ガス処理等によりハダニを徹底防除し、本ぼへの持込みを防ぐ。
・ 育苗期後半～定植当日にモベントフロアブル(I:23)をかん注する。なお、天敵を導入するほ場では、天敵への影響日数（45 日）に注意して使用する。
・ 抵抗性発達防止のため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備 考 ・ [いちごに発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

7 ねぎ 黒斑病・葉枯病

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並（両病害合計で平年比 107%：ほ場率、平年比 7%：株率）。(±)
・ 向こう 1 か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ 多湿条件で発生しやすいため、秋雨期や曇雨天が続く場合は発生に注意する。

8 なし ハダニ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並（平年比 119%：ほ場率、平年比 83%：葉率）。(±)
・ 向こう 1 か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 化学農薬に対する感受性低下が著しいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ雌成虫及び卵に対する主要薬剤の殺虫効果](#)を当センターHP に掲載中。

9 りんご 斑点落葉病・褐斑病

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は、斑点落葉病で多く（平年比 292%：ほ場率、平年比 400%：葉率）、褐斑病でやや多い（平年比 221%：ほ場率、平年比 125%：葉率）。(＋)
・ 向こう 1 か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ 定期的に予防散布を行い、耐性菌発生防止のため RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュース（速報 No. 4）](#)を当センターHP に掲載中。

10 大豆・野菜類・花き類 オオタバコガ

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 8 月第 1 半旬までのフェロモントラップへの誘殺数はやや多い。(＋)
・ 向こう 1 か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・ 施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。
・ 幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期に薬剤を散布する。

11 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
水稻	紋枯病	平年並	やや多	野菜類	ハダニ類	平年並	やや多
大豆	紫斑病	—	やや少		ハスモンヨトウ	平年並	やや多
きゅうり	べと病	多	多	果樹類	カメムシ類	少	やや少
大豆・野菜類	アブラムシ類	平年並	やや多	きく	ハダニ類	やや少	平年並
野菜類	アザミウマ類	平年並	やや多		白さび病	少	やや少

○トマト黄化葉巻病 (TYLCV) の防除対策

- ・ TYLCV はタバココナジラミによって媒介されます。夏秋トマトで黄化葉巻病が発生したほ場では、施設の蒸し込みを行うなど、残さに寄生している媒介虫を施設外に「出さない」対策を徹底しましょう。

○トマト・なす等 トマトキバガ

- ・ 外来害虫である本種の国内における確認報告が相次いでおり、8 月現在、23 道県で発生が確認されています。栃木県における発生は確認されていませんが、飛翔による分散や苗類等を介して本県での発生が懸念されます。発生が疑われる場合はお近くの農業振興事務所もしくは農業環境指導センターへ御連絡ください。
- ・ [注意喚起チラシ](#)を当センターHP に掲載中です。

農薬は適正に使用しましょう

- 農薬を適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農薬による事故等の発生を防止しましょう。
- 6月～8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。

1か月気象予報（予報期間8月26日から9月25日 8月24日気象庁発表）

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。天気は数日の周期で変わるでしょう。向こう1か月の平均気温は高い確率80%です。降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は少ない確率40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10%	10%	80%
降水量	20%	40%	40%
日照時間	40%	30%	30%

詳しくは農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せください。

病虫害情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部 \(@tochigi_nousei\)](https://twitter.com/tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。

